

審議テーマの絞り込み

テーマ「大地震から助かる命を守る」

3つの最優先テーマ

・死者数を0にすることを目標に、区民による主体的な取り組みにつなげる（火災死者 26 人→0人 建物倒壊死者 16 人→0人「川崎市地震被害想定報告書（平成 25 年 3 月）」からそれぞれの死者数の最大値を引用）

1 家屋の倒壊防止



- ・耐震補強が必要な家屋の把握とその解消
- ・耐震診断・耐震補強工事の実施の促進など

2 家具の転倒防止



- ・家具・電化製品の固定化の促進、置き場所の見直しなど

3 火災予防 ・火事発生への対応



- ・火災予防対策、消火活動に関する近隣での認識共有
- ・町会・自治会、マンション等での消火器の設置・共用など

2つの優先テーマ

・災害時に援護を必要とする方々への対応
・負傷または生き埋めとなった方々の一刻も早い救助、手当、安全な場所への収容など

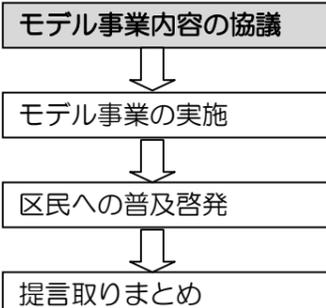
- 4 災害時要援護者等への対応
- 5 負傷者、生き埋め者の救助

モデル事業の概要

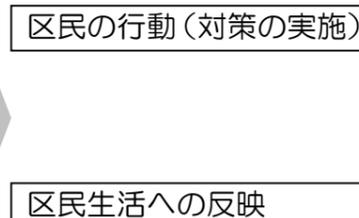
- ① 目的
 - ◆ モデル事業を実施し、「大地震で助かる命を守る」に向けて地震防災対策に関する区民の主体的な取り組みを促進する
- ② 内容
 - ◆ モデル対象地区として、戸建て系及びマンション系の家屋グループを選定し、3つの最優先テーマを踏まえたモデル事業を実施する
 - ◆ モデル事業の内容としては、対象地区・対象家屋に対して、家屋の倒壊防止、家具の転倒防止、火災予防・火事発生への対応の観点から実施すべき対策を提案するとともに、特に家具の転倒防止に関しては実際に家具の固定工事や移動、ガラスの飛散防止など必要な地震安全対策を実施する
 - ◆ 実施前後の住まい手の意識・認識の変化を含め、モデル事業の評価・検証を行い、対策の普及に関する問題点や課題を把握する
- ③ 広報・周知
 - ◆ モデル事業の実施結果やそこから得られた成果を取りまとめ、パンフレット・DVD等の普及ツールを作成し、区民への普及・啓発を通じて地震防災対策に関する取り組みの促進につなげ、死者数「0」を目指す

活動計画（案）の協議 （モデル事業の位置づけ・実践内容の決定の流れ）

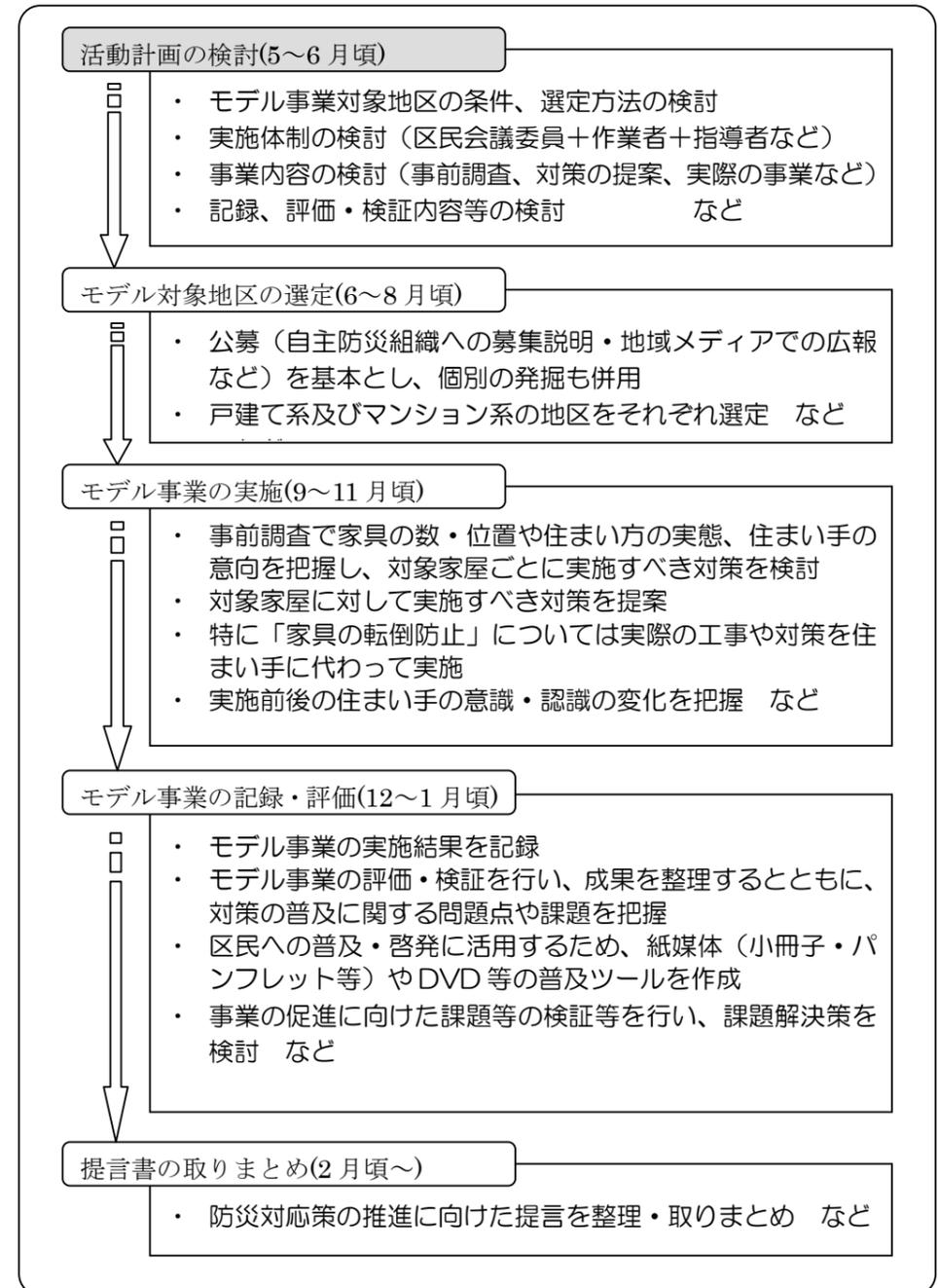
区民会議での審議・取り組み



課題解決策の実践



モデル事業の進め方



活動計画の検討(5~6月頃)

- ・モデル事業対象地区の条件、選定方法の検討
- ・実施体制の検討（区民会議委員+作業員+指導者など）
- ・事業内容の検討（事前調査、対策の提案、実際の事業など）
- ・記録、評価・検証内容等の検討 など

モデル対象地区の選定(6~8月頃)

- ・公募（自主防災組織への募集説明・地域メディアでの広報など）を基本とし、個別の発掘も併用
- ・戸建て系及びマンション系の地区をそれぞれ選定 など

モデル事業の実施(9~11月頃)

- ・事前調査で家具の数・位置や住まい方の実態、住まい手の意向を把握し、対象家屋ごとに実施すべき対策を検討
- ・対象家屋に対して実施すべき対策を提案
- ・特に「家具の転倒防止」については実際の工事や対策を住まい手に代わって実施
- ・実施前後の住まい手の意識・認識の変化を把握 など

モデル事業の記録・評価(12~1月頃)

- ・モデル事業の実施結果を記録
- ・モデル事業の評価・検証を行い、成果を整理するとともに、対策の普及に関する問題点や課題を把握
- ・区民への普及・啓発に活用するため、紙媒体（小冊子・パンフレット等）やDVD等の普及ツールを作成
- ・事業の促進に向けた課題等の検証等を行い、課題解決策を検討 など

提言書の取りまとめ(2月頃~)

- ・防災対応策の推進に向けた提言を整理・取りまとめ など

第1回区民会議フォーラムの開催(9月)

- ◆ 「大地震から助かる命を守る」を中心に、区民会議での調査・審議経過などを区民に対し報告を行う機会とする。
- ◆ 専門家の話やアドバイスを聞く機会とする。
- ◆ 参加した区民の方が防災に向けた取組を考え、行動するきっかけとなるようにする。

